

第5期みやぎ観光戦略プラン(石巻圏域の施策の方向)

石巻圏域

(石巻市, 東松島市, 女川町)

～海・街・空を活かしたゆとり旅空間の創出～

石巻圏域について

- 石巻圏域は、宮城県の東部に位置しており、寒流と暖流がぶつかる世界屈指の三陸漁場を間近に控えた海岸線は、中央に突出した牡鹿半島を境に、北は複雑な地形が入り組んだリアス式海岸、南は広大な砂浜海岸となっている。
- 管内面積は約 721 平方キロメートルで、県全体の約 1 割を占めている。
- 管内人口は、185,679 人(令和 2 年国勢調査)と、震災前の平成 22 年と比較して 20,729 人減(減少率 9.7%)となった。

圏域の観光の現状

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンド及び遠隔地からの観光客が激減するとともに、マイクロツーリズムの需要が増加している。
- 観光情報の魅力発信、公共交通の利便性向上やデジタル化の推進といった社会環境の変化に対応した観光地づくりが求められている。
- 感染症拡大前は、「Reborn-Art Festival」や「ツール・ド・東北」等の誘客イベントの実施により、観光客入込数は増加していたものの、宿泊者数の割合が少ない状況であり、現在も少ない状況が継続している。

圏域の観光の課題

- インバウンド及び遠隔地からの観光客の回復に向けた取組みと同時に、継続してマイクロツーリズムの需要に応える、ポストコロナ時代の観光地づくりが必要。
- 観光情報や魅力の発信による知名度の向上と来訪の喚起を通じて、交流人口の拡大を図るとともに関係人口及び関係地域の創出に繋げるほか、デジタル化推進や交通アクセス向上に向けた取組みが必要。
- 芸術文化、スポーツ等に焦点を当てた体験プログラム、伝承ツアーといった新たな価値を創出し、地域に滞在し静養や体験型を始めとしたレジャーを楽しむ「滞在型観光」を実現することが必要。

圏域の施策の方向性及び取組

<計画期間で対応が必要な取組>

- ポストコロナ時代の観光地づくり
 - ・石巻圏域内の各地域の魅力に焦点を当てた、マイクロツーリズム需要の継続的な取り込みに向けた観光コースの造成
 - ・新しい生活様式に対応した「適疎」な観光の浸透
 - ・石巻圏域の歴史的な魅力を再発見するための観光資源の面的な整備
- 関係人口や関係地域の創出、デジタル化及び交通課題の解決
 - ・宮城県内外における石巻圏域の物産観光展等の開催
 - ・石巻圏域の豊富な食と観光資源のPRによる、地域価値、知名度の向上
 - ・観光地のみならず、農山漁村地域における交流の拡大
- 新たな観光資源の創出による「滞在型観光」の実現
 - ・日常の暮らしの中にある体験プログラムの開発
 - ・アート、オルレ、みちのく潮風トレイルを活用したトレッキング、サイクルツーリズム等、新しい視点からの観光推進と質の向上
 - ・宿泊需要の取り込みに向けた、地域の飲食、自然の魅力のPRによる朝、夜時間の一層の充実

<中長期的に対応が必要な取組>

- ポストコロナ時代の観光地づくり
 - ・ボランティア等の社会貢献プログラムの造成及び持続可能な観光地づくりの実現
 - ・インバウンドの回復及び取り込みに向けた、街中の観光案内、ガイドブック、パンフレットの多言語化の推進
 - ・県関係機関や市町、民間事業者等と連携した、外国人観光客案内ガイド等の観光業に携わる人材の育成

- 関係人口や関係地域の創出，デジタル化及び交通課題の解決
 - ・宮城県内外の周辺観光地との観光イベント等を通じた連携の強化
 - ・県内主要観光地から石巻圏域へと観光行動を促す，デジタルマーケティング等の手法を用いた，情報の多元的な発信
 - ・半島部や離島部等の交通過疎地における，MaaS の導入を含めたバス路線やタクシー，航路の利便性向上による，訪れやすい観光地づくりの実現

- 新たな観光資源の創出による「滞在型観光」の実現
 - ・「みやぎ東日本大震災津波伝承館」等の震災伝承施設を巡る伝承ツアー，防災教育を SDGs プログラムに組み込んだ商品の整備及び促進
 - ・石巻圏域の豊富な芸術，スポーツ資源を活用したアートツーリズム，スポーツツーリズムの誘致及び定着による，宿泊地として選ばれる観光地づくりの実現



石ノ森萬画館
(石巻市)



ブルーインパルス
(東松島市)



黒森山からの眺望
(女川町)